

環境配慮型まちづくりについて

環境に配慮したまちづくりの取組等について、これまでの経過を下記のとおり報告する。

1. 中野区基本計画・第4次中野区環境基本計画

令和3年9月に策定した「中野区基本計画」において、施策「脱炭素社会の推進と気候変動への適応」の主な取組として「脱炭素社会へ向けた地球温暖化対策の推進」を掲げ、その中の主な事業の一つとして「各地区のまちづくりにおける環境形成型のまちづくりの検討」を位置づけた。

また、同時期に策定した「第4次中野区環境基本計画」においても、「環境形成型のまちづくり」を重要な取組として盛り込み、これらの事業を推進してきた。

2. 中野区ゼロカーボンシティ宣言

令和3年10月には「中野区ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、区民、事業者との連携・協働のもと、脱炭素社会の推進と気候変動への適応の課題についての取組を加速していくことを表明した。

3. 中野区脱炭素ロードマップ

令和6年6月には、「第4次中野区環境基本計画」及び「中野区ゼロカーボンシティ宣言」で定めた二酸化炭素排出量削減の目標達成に向け、区取組内容や削減効果、取組の方向性を示した「中野区脱炭素ロードマップ」を作成した。

ロードマップでは、今後の区内のまちづくりに関わるあらゆる取組を通じて、環境配慮・脱炭素化の視点を加え、「エネルギーの効率的利用の推進」、「みどりを活かしたゆとりある環境の形成」、「環境負荷の少ない交通環境の形成」の取組

について検討し、合意形成を図りながら実行していくという「まちづくりの全体方針」を打ち出している。

「まちづくりの全体方針」を踏まえた個別の取組としては、地区計画、まちづくりに際して任意で策定する対象エリアの構想、計画、整備方針等に、脱炭素の推進に資する方針等を位置づけることを検討し、環境配慮の施策誘導を図ることとしている。

このうち、中野駅周辺まちづくりにおける対策として、今後整備が進む各地区の施設建築物については、断熱性能が高く省エネ性能の高い設備設置をするものとする。また、駅前広場を中心とした公共空間、街区の外構においては、省エネルギー型の設備機器の導入、二酸化炭素吸収・緑陰形成につながる緑化、路面温度上昇抑制効果のある舗装材の使用等の取組を進めていく。

4. 次期（第5次）中野区環境基本計画の策定

令和6年7月、区長から中野区環境審議会に対して「中野区環境基本計画の改定に当たっての基本的考え方と、同計画に盛り込むべき事項等について」を諮問した。

現在、審議会において、区長からの諮問に応じて審議を進めているところである。

今後、審議会から答申を受けたのち、今般の区を取り巻く状況等を踏まえ、次期中野区環境基本計画の検討を進めていくこととしている。

なお、次期中野区環境基本計画には、脱炭素ロードマップの内容を盛り込むことを予定している。